[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日　平成 20 年　11 月　30 日

【評価実施概要】

事業所番号	3670200140
法人名	株式会社　綜合医療
事業所名	グループホーム　そよかぜ
所在地	徳島県鳴門市瀬戸町明神字上本城77－2 （ 電 話 ）088-683-7888

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成　20 年　11 月　27 日

【情報提供票より】（平成　20 年　11 月　12 日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　12 年　9 月　1 日	
ユニット数	1　ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	9　人	常勤:9人、常勤換算:9人

（2）建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り
	2　階建ての　2　階　部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	24,000 円		その他の経費（月額）	共通部分光熱費3,000円、その他実費
敷　金	有（　円）		無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　円） 無		有の場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	300 円	昼食	400　円
	夕食	400 円	おやつ	0　円
	または1日当たり	1,100 円		

（4）利用者の概要　（平成　20 年　11 月　12 日現在）

利用者人数	9　名	男性	0　名	女性	9　名
要介護1	1　名	要介護2	3　名		
要介護3	4　名	要介護4	1　名		
要介護5	0　名	要支援2	0　名		
年齢　平均	85　歳	最低	75　歳	最高	90　歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	健康保険鳴門病院、佐賀歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所からは小鳴門橋や海に浮かぶ漁船、養殖イカダが眺められ、背後には山があり季節の移り変わりが感じられる。利用者の居室は2階にあり、日当たりもよい。管理者や職員は積極的に研修へ参加し、自己研鑽に努めている。また職員は利用者の生きがいや思いを支え、優しくさりげない関わりをもっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

前回評価の主な課題である「地域密着型サービスとしての理念」、「理念の共有と日々の取り組み」、「評価の意義の理解と活用」、「家族等への報告」、「同業者との交流を通じた向上」、「チームでつくる利用者本位の介護計画」、「現状に即した介護計画の見直し」、「栄養摂取や水分確保の支援」については改善されている。しかし「運営推進会議を活かした取り組み」、「職員を育てる取り組み」、「鍵をかけないケアの実践」については改善されていない。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

自己評価は、全職員が意見を出し合い管理者がまとめている。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

運営推進会議は3か月に1回開催し、利用者や家族、市職員、地域包括支援センター職員、近隣住民、事業所職員が参加している。会議では参加者間で、評価や年間行事、災害対策などについて話し合われている。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

意見箱の設置や市からの介護相談員の受け入れ、家族の来訪時に話し合いの場を設けるなどして意見等を把握している。要望等は市職員を含めて話し合うなどして運営に反映させている。家族には「そよかぜ通信」を発行し、利用者の状況などと併せて伝えている。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

自治会に加入して地域の祭りや清掃活動に参加するなどして交流を図っている。また地域のグループホームの行事にはお互いに参加し合っている。

2.　評価結果(詳細)

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員間で話し合い、地域密着型サービスとしての理念を掲げ、玄関やホールに掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念について話し合う場を設けて共有し、日々の実践に取り組んでいる。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入して地域の祭りや清掃活動に参加するなどして交流を図っている。また地域のグループホームの行事にはお互いに参加し合っている。地域からも事業所行事への参加がある。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、全職員が意見を出し合い管理者がまとめている。外部評価結果についても職員間で話し合い、運営推進会議においての意見も参考にして課題の改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には利用者や家族、市職員、地域包括支援センター職員、近隣住民、事業所職員が参加している。会議では参加者間で、評価や年間行事、災害対策などについて話し合われている。しかし、開催頻度は3か月に1回となっている。	○	運営推進会議は2か月に1回開催されたい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月、事業所の利用状況などを市に報告し、運営について相談するなどしている。また市からの介護相談員を受け入れ、市職員も含めた話し合いによりサービスの質の向上に努めている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「そよかぜ通信」と利用者の近況報告を書いた手紙などを毎月送付している。金銭管理も報告し、家族の確認印・サインがある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や市からの介護相談員の受け入れ、家族の来訪時に話し合いの場を設けるなどして意見等を把握している。要望等は市職員を含めて話し合うなどして運営に反映させている。また重要事項説明書には外部の苦情相談受付窓口を明記している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はほとんどない。やむを得ない離職などの場合は利用者に十分な説明を行い、影響が出ないよう配慮している。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外で行われる研修の計画を作成して受講し、内容を報告している。しかし、研修内容が共有されたことが分かる記録がない。	○	研修内容が職員に共有されていることが確認できるよう報告書に確認印・サインをされたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加した際や地域の他事業所との相互訪問を通して交流し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員が自宅を訪問したり、利用者や家族に事業所を見学してもらい雰囲気を体感してもらうなど、徐々に馴染みながら利用できるよう働きかけている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から食事の盛り付け方を教わったり洗濯ものを一緒に片付けるなど、共に支え合う関係を築いている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は趣味や行事、外出への参加、入浴の順番など、利用者一人ひとりの希望にそった支援に努めている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	会議では利用者や家族の希望、主治医の助言、職員の観察によるモニタリングの記録などを基にして話し合い介護計画を作成している。計画書には利用者・家族の確認印・サインがある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、期間に応じた定期的及び利用者の心身の変化に応じて随時見直し、現状にそったものとなっている。見直し時にも利用者や家族の意見、主治医の助言、職員による観察結果を基にして必要な関係者間で話し合われている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に応じて通院や墓参りへの付き添いなど、柔軟に支援している。また空床ができた場合には短期利用型共同生活介護を受け入れる体制がある。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医と連携し、通院支援などを行っている。また週1回、協力医の訪問診療がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、事業所が対応できるまでの支援という方針であり、かかりつけ医などと繰り返し話し合っている。また家族などとも話し合い、全員で方針を共有している。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いについては職員間で周知・徹底し、入居契約書にも明文化している。また排泄や入浴時にはあたたかい言葉かけやさりげない介助など、プライバシーに配慮した支援を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家事への参加などは、利用者の希望を聞いてその日の過ごし方を決めている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	朝・夕は職員と利用者が食材を買いに行き、調理・盛り付けをしている。利用者と職員は一緒に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、毎日入れるよう支援している。順番も利用者の希望に応じた支援を行っている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者と一緒に食材の買い物や食事の盛り付け、洗濯を干したりたたんだりする役割分担、プランターの水やりを行ってもらうなど、一人ひとりの能力を活かした支援を行っている。またロール画などの趣味活動の支援も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物などの日常的な外出を支援している。またお花見やぶどう狩りなど、遠出できる機会も設けている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所は2階にあり、利用者の身体状況が低下しているため、安全確保のためにやむを得ず施錠している。	○	日中は、鍵をかけないケアを実践されたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署にも来てもらい、火災や地震、夜間を想定した避難訓練などを実施している。避難誘導図も作成して町内の協力が得られるよう依頼している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量を記録し、かかりつけ医の助言を受けて栄養バランスに配慮した支援を行っている。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関横には畑があり、2階テラスには季節の鉢植えが置かれている。食堂兼ホールにはソファーと畳コーナーがあり、ゆったりとくつろげるようになっている。壁面には利用者が作成したロール画や行事の写真が飾られている。また趣味の小物なども置かれ、あたたかい雰囲気がつくられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の希望や身体状況にあわせてベッドや、小さめのタンス、イス、冷蔵庫、テレビなどを持ち込み、使いやすいように配置して居心地よく過ごせるようになっている。		